

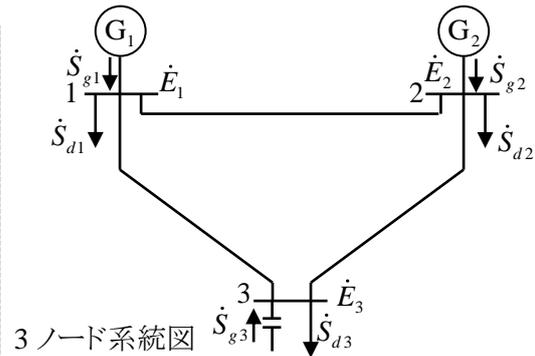
3.5 潮流計算

電力系統の表し方

- ・ 単相等価回路(平衡三相回路を単相で扱い三相に拡張)
- ・ 単線結線図(電力系統の要素間接続関係を表現)
- ・ 単位法(理想変圧器要素を除外, 各部の電圧値を約 1.0pu で表現→異常値の検出)
- ・ 電力円線図(2変電所間(送受電端間)の電力の流れ)
- ・ 電力(回路網)方程式:ノードとブランチで表現

電力方程式

- 電力潮流:電力の流れ
- 母線(ブス):電力潮流を切り換える線
- ノード:回路の分岐点
発電機, 負荷, 調相設備(電力用コンデンサ, 分路リアクトル, など)
- ブランチ:2箇所のノード間の接続要素
送電線(π形等価回路で表現)
変圧器(理想変圧器で表せない場合)



2ノード系の電力方程式

$$\dot{I}_1 = \dot{y}_1 \dot{E}_1 + \dot{y}_{12} (\dot{E}_1 - \dot{E}_2)$$

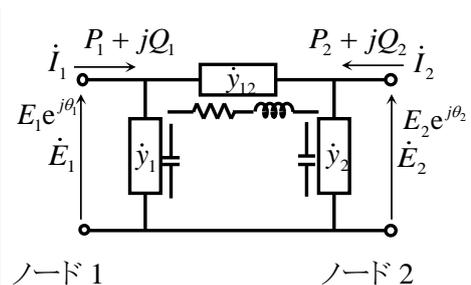
$$\dot{I}_2 = \dot{y}_{12} (\dot{E}_2 - \dot{E}_1) + \dot{y}_2 \dot{E}_2$$

ここで, $\dot{Y}_{11} = \dot{y}_1 + \dot{y}_{12}$, $\dot{Y}_{22} = \dot{y}_2 + \dot{y}_{12}$, $\dot{Y}_{12} = \dot{Y}_{21} = -\dot{y}_{12}$ と置き換えると以下のノード方程式が得られる。

$$\begin{bmatrix} \dot{I}_1 \\ \dot{I}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \dot{Y}_{11} & \dot{Y}_{12} \\ \dot{Y}_{21} & \dot{Y}_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_1 \\ \dot{E}_2 \end{bmatrix}$$

\dot{Y}_{11} : ノード 1 の駆動点アドミタンス(アドミタンスの和)

\dot{Y}_{12} : ノード 1-2 間の伝達アドミタンス(負の符号)



※矢印の向きに注意

(ノード 1,2 に発電機があり両者が送電線で結ばれている状態)

ノード 1, 2における電力は次のように表す。

$$\begin{aligned} \dot{S}_1 &= P_1 + jQ_1 = \dot{E}_1 \bar{I}_1 = \dot{E}_1 \overline{(Y_{11} \dot{E}_1 + Y_{12} \dot{E}_2)} \\ &= \bar{Y}_{11} \dot{E}_1^2 + \bar{Y}_{12} \dot{E}_1 \dot{E}_2 \end{aligned}$$

$$\dot{S}_2 = P_2 + jQ_2 = \dot{E}_2 \bar{I}_2 = \bar{Y}_{21} \dot{E}_1 \dot{E}_2 + \bar{Y}_{22} \dot{E}_2^2$$

$$\begin{aligned} \dot{Y}_{11} &= Y_{11} e^{j\varphi_{11}}, \quad \dot{Y}_{22} = Y_{22} e^{j\varphi_{22}} \\ \dot{Y}_{12} &= Y_{12} e^{j\varphi_{12}}, \quad \dot{Y}_{21} = Y_{21} e^{j\varphi_{21}} \\ \dot{E}_1 &= E_1 e^{j\theta_1}, \quad \dot{E}_2 = E_2 e^{j\theta_2}, \quad \text{と変換} \\ \theta_1 - \theta_2 &= \theta_{12}, \quad \theta_2 - \theta_1 = \theta_{21} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P_1 + jQ_1 &= Y_{11} E_1^2 \exp(-j\varphi_{11}) + Y_{12} E_1 E_2 \exp j(\theta_{12} - \varphi_{12}) \\ P_2 + jQ_2 &= Y_{21} E_1 E_2 \exp j(\theta_{21} - \varphi_{21}) + Y_{22} E_2^2 \exp(-j\varphi_{22}) \end{aligned}$$

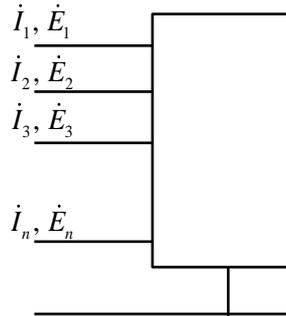
$$\begin{aligned} P_1 &= Y_{11} E_1^2 \cos \varphi_{11} + Y_{12} E_1 E_2 \cos(\theta_{12} - \varphi_{12}) \\ Q_1 &= -Y_{11} E_1^2 \sin \varphi_{11} + Y_{12} E_1 E_2 \sin(\theta_{12} - \varphi_{12}) \\ P_2 &= Y_{22} E_2^2 \cos \varphi_{22} + Y_{21} E_1 E_2 \cos(\theta_{21} - \varphi_{21}) \\ Q_2 &= -Y_{22} E_2^2 \sin \varphi_{22} + Y_{21} E_1 E_2 \sin(\theta_{21} - \varphi_{21}) \end{aligned}$$

以上から, 有効電力と無効電力に分けて, 2ノード系統の電力方程式(右枠内)が得られる。

変数は両ノードの, P, Q, E, θ で 8 個, 方程式は 4 個なので, 4 変数を指定すると他が定まる。

多ノードシステムの電力方程式

$$\begin{bmatrix} \dot{I}_1 \\ \dot{I}_2 \\ \vdots \\ \dot{I}_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \dot{Y}_{11} & \dot{Y}_{11} & \cdots & \dot{Y}_{11} \\ \dot{Y}_{11} & \dot{Y}_{11} & \cdots & \dot{Y}_{11} \\ \vdots & \vdots & \cdots & \vdots \\ \dot{Y}_{11} & \dot{Y}_{11} & \cdots & \dot{Y}_{11} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \dot{E}_1 \\ \dot{E}_2 \\ \vdots \\ \dot{E}_n \end{bmatrix}$$



直流法:

送電損失と無効電力の分布を無視し、有効電力の分布と書くノード電圧の相差角分布を求める

簡単のため駆動点アドミタンス $\dot{Y}_{ii} = 0$ で、ノード

1-2 間のインピーダンスのみを考える。 P_1 は

$$\begin{aligned} P_1 &= Y_{11} E_1^2 \cos \varphi_{11} + Y_{12} E_1 E_2 \cos(\theta_{12} - \varphi_{12}) \\ &= Y_{12} E_1 E_2 \{ \cos \theta_{12} \cos \varphi_{12} + \sin \theta_{12} \sin \varphi_{12} \} \end{aligned}$$

ここで、ノード 1, 2 の電圧位相角の差: θ_{12} は小で
とする。 $\dot{Y}_{11} = y_{12} = R_{12} + jX_{12}$ であり、ノード 1-2

間の抵抗 $R \ll X$ の場合は、

$$\sin \theta_{12} \approx \theta_{12}, \quad \cos \theta_{12} \approx 1$$

$$\varphi_{12} = \tan^{-1} \frac{X_{12}}{R_{12}} \rightarrow \varphi_{12} = \frac{\pi}{2} \text{ より}$$

$$P_1 \approx Y_{12} E_1 E_2 (1 \cdot 0 + \theta_{12} \cdot 1) = Y_{12} E_1 E_2 \theta_{12},$$

$Y_{12} = 1/X_{12}$ だから、

$$P_1 \approx \frac{\theta_1 - \theta_2}{X_{12}} E_1 E_2,$$

また、電圧は 10% 以内に制御されるので $E_1 = E_2 = 1 \text{ pu}$ とすれば一般化して、

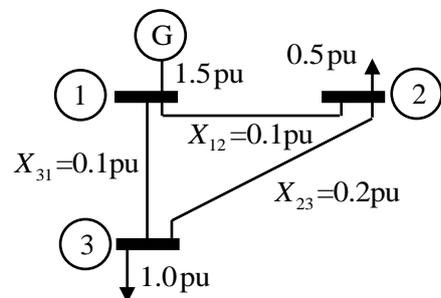
$$P_{ij} \approx \frac{\theta_i - \theta_j}{X_{ij}}, \text{ または, } \boxed{\theta_i - \theta_j = X_{ij} P_{ij}}$$

オームの法則 $V = RI$ と対比し、
 $\theta_{ij} \rightarrow V, X_{ij} \rightarrow R, P_i \rightarrow I$ すると、 θ, P の

関係を直流回路で解くことができる。(直流計算法、フロー直流法という)

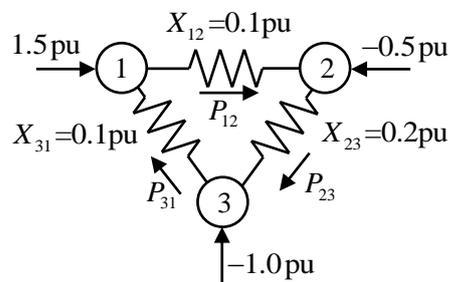
また、系統の抵抗分は無視したので電力損失は無く、 $\sum_{i=1}^n P_i = 0$ である。

直流計算法による電力潮流計算



- 各ノードの電力潮流の和=0
- ループ1周の相差角の和=0

簡略化した等価回路は



図で、 $E_1 = E_2 = 1 \text{ pu}$ とし、各ブランチの潮流とノード 1-2 間の電圧位相角の差を求めよ。

$$\begin{aligned}
 1.5 - P_{12} + P_{31} &= 0 \\
 P_{12} - 0.5 - P_{23} &= 0 \quad \text{より,} & P_{31} &= P_{12} - 1.5 \\
 P_{23} - 1.0 - P_{31} &= 0 & P_{23} &= P_{12} - 0.5 \\
 \theta_{12} &= (\theta_1 - \theta_2) = 0.1 \times P_{12} \\
 \theta_{23} &= (\theta_2 - \theta_3) = 0.2 \times P_{23} \\
 \theta_{31} &= (\theta_3 - \theta_1) = 0.1 \times P_{31} \quad \text{和を取ると左辺} = 0
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 0 &= 0.1 \times P_{12} + 0.2 \times P_{23} + 0.1 \times P_{31} \\
 &= 0.1 \times P_{12} + 0.2 \times (P_{12} - 0.5) + 0.1 \times (P_{12} - 1.5) \\
 &\text{よって,} \\
 P_{12} &= 0.625 \text{ pu, } P_{31} = -0.875 \text{ pu, } P_{23} = 0.125 \text{ pu,} \\
 &\text{また, } \theta_{12} = (\theta_1 - \theta_2) = 0.1 \times P_{12} \text{ より} \\
 \theta_1 - \theta_2 &= P_{12} \times X_{12} = 0.0625 \text{ rad}
 \end{aligned}$$

3.6 電力系統の周波数制御

電力需要と供給の関係(1台の発電機)

$$P_M = P_E + M \frac{df}{dt}$$

ここで、 P_M : 蒸気タービンなどの回転力、 P_E : 発電機の電気出力、 M : 慣性定数、 f : 周波数、 df/dt : 回転子の加速度、 P_E は負荷で消費される電力と送配電ネットワークの抵抗分で消費される電力損失の和。

需要と供給の差と周波数変化

$P_M > P_E$ (供給過剰), f : 上昇

$P_M = P_E$ (供給過剰), f : 一定

$P_M < P_E$ (供給過剰), f : 下降

・負荷周波数特性 $\frac{\Delta P_L}{\Delta f} = -K_L$ (1)

ΔP_L : 負荷変化量[MW], Δf : 周波数偏差[Hz], K_L 負荷周波数特性定数[MW/Hz]

通常 $K_L = 0.03 \sim 0.06$ [MW/Hz]・発電機周波数

特性 $\frac{\Delta P_G}{\Delta f} = K_G$ (2)

ΔP_G : 発電機出力変化量[MW], Δf : 周波数偏差[Hz], K_G 発電機周波数特性定数[MW/Hz]

通常 $K_G = 0.07 \sim 0.14$ [MW/Hz]

・系統周波数特性

系統内の電力不均衡は ΔP_G と ΔP_L からなる電力不均衡量 ΔP

$$\Delta P = \Delta P_G - \Delta P_L \quad (3)$$

(3)に(1)(2)を代入して、系統周波数特性は

$$\frac{\Delta P}{\Delta f} = \frac{\Delta P_G}{\Delta f} - \frac{\Delta P_L}{\Delta f} = K_G + K_L = K \quad (4)$$

となる。通常 $K = 0.1 \sim 0.2$ [MW/Hz]

連携系統の電力周波数特性

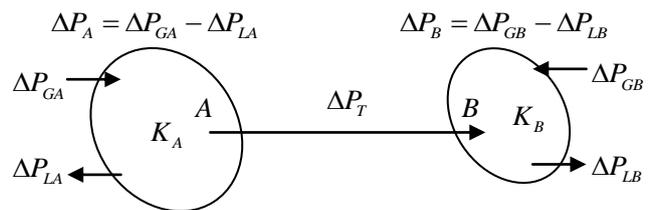
電力系統 A, B が連携線を介して連携している。A, B で電力不均衡が生じて、A から B へ ΔP_T : 連携線潮流偏差、分だけ電力が送られ、系統周波数偏差 Δf が生じたとする。

(4)より

$$\text{系統 A: } \Delta f = \frac{\Delta P_A - \Delta P_T}{K_A} = \frac{\Delta P_{GA} - \Delta P_{LA} - \Delta P_T}{K_A}$$

$$\text{系統 B: } \Delta f = \frac{\Delta P_B + \Delta P_T}{K_B} = \frac{\Delta P_{GB} - \Delta P_{LB} + \Delta P_T}{K_B}$$

これらから、



$$\Delta P_T = \frac{K_B(\Delta P_{GA} - \Delta P_{LA}) - K_A(\Delta P_{GB} - \Delta P_{LB})}{K_A + K_B} \quad (5)$$

$$\Delta f = \frac{(\Delta P_{GA} - \Delta P_{LA}) + (\Delta P_{GB} - \Delta P_{LB})}{K_A + K_B} \quad (6)$$

ここで、 $\Delta P_A, \Delta P_B$: 地域 A, B の電力不均衡量

$\Delta P_{GA}, \Delta P_{GB}$: 地域 A, B の発電機出力変化量

$\Delta P_{LA}, \Delta P_{LB}$: 地域 A, B の負荷変化量

K_A, K_B : 地域 A, B の系統周波数特性定数